

英幼稚園が保育所も併設

白井市初の「認定こども園」

大口で英幼稚園を運営する学校法人・高木学園(椎名英子理事長)は、来年4月、白井市初の「認定こども園」として保育園を開園することになった。

保育所の待機児童が全国で2万人以上もいるのに、少子化の影響で幼稚園の数が減る一方、そんな矛盾を解消するため、2年前に全国35施設でスタートしたのが「認定こども園」。

満6カ月以上から小学校就学前までの「保育に欠ける乳幼児」が入所基準となっており、「就学前の子どもに対する教育と保育を一体的に提供する機能」と、「地域における子育て支援を行う機能」を備えていると、都道府県知事から認定を受けることができる。

既存の幼稚園を「認定こども園」として活用すれば、待機児童を減らすことも可能。保護者が働いているかどうかに関係なく、子どもは同じ施設を利用できる。

保護者が働いていて家庭で保育できない「保育に欠ける子ども」と家庭保育が行われている「保育に欠けない子ども」を受け入れることで、子どもの育ちに必要な規模の

集団も確保できるメリットも。現在、千葉県で認定されているのは、習志野市の「東習志野こども園」(公営)と千葉市の「かしの木」(私営)の2カ所だけ。

保育所の開設にともない、英幼稚園の北側に隣接する大口小学校の駐車場(約650㎡)が、高木学園に譲渡される。譲渡と駐車場の解体工事は8月上旬、駐車場の移転工事は10月頃の予定。この譲渡で同小学校を管轄する白井市には、土地売却収入と駐車場移転に伴う補償料を合わせて4千万円以上が入る予定だ。



ナレオシックスアイランドのメンバーとゲストボーカルの山宣子さん(中央)。露木茂氏(左端)は司会とウクレレ演奏

9月に市文化会館でチャリテイ

白井市福祉イベント実行委員会(高山弘美会長)は、第1回目のイベント「ナレオ・ハワイアンズ・チャリテイ・コンサート」を9月8日に白井市文化会館で開催する。

出演するのは、10年前に結成された早稲田大学OBバンド「ナレオシックスアイランド」、ハワイ民族舞踊研究会(早大生)、フラダンス愛好会ら。元フジTVアナの露木茂氏が司会担当、ウクレレ演奏も披露する。

実行委員会では、チャリテイ・イベントで得た収益金は、白井市福祉センターの設備充実など、身障者や高齢者が安心して活動できる環境づくりに使うという。

また、グループホーム利用者、独居老人、心身

しっかり施工 安心保証
地域の仲間をつくった
しろいリフォーム
白井市バリアフリー環境相談会理事
電話047(492)8009

辛正純治の提案箱



私は6月議会で、「白井工業団地活性化と地域雇用」というテーマで、旧沼南町の境にかかる大型車通行規制となつて

さらに問題なのは、工業団地の市町村別就労人口の割合です。白井市民がたった17%しか占めていません。せつかく働く場所があるのに、この数値は低すぎませんか。地場の法整備を受けて、大口小学校の一角に保育園を併設することになったのです。私は「保育園待機待ちをゼロに」を公約にしていますから、朗報です。

今若年層の転入が増え、化へのカーブを緩めたいですね。

今、市町村合併第二ステージが進行しています。夕張市が財政破綻したことで将来的な市の財政運営に危惧を抱いている市民も少なくないでしょう。そこで私は、「市町村合併に関する調査特別委員会設置」を要望しました。合併推進を目的とせず、調査研究の中で、市の将来像を見いだすためです。

住民意識調査の実施、住民集会所を開催しながら、市民の皆様と市町村合併のメリットとデメリットを考へて行きたいと思ひます。そして皆さんと共に、快適な住環境を有する住宅都市を実現したいものです。

白井市芸能振興会(馬場崎隆二・会長)加盟の大藤紫会、小笠原峰幸会、櫻葉会の3団体が、8月4日に予定されている我孫子市の「けやきブラザ1周年祭」に参加することになった。

けやきブラザは、我孫子市と千葉県東の複合施設として昨年8月1日、我孫子駅南口に開館。1周年祭では、日本舞踊や剣舞、琵琶・大正琴などの演奏が披露される。

障害者をチャリテイ・コンサートに無料招待するため、支援金カンパも呼びかけている。当日、会場で配布するパンフにこの譲渡で同小学校を管轄する白井市には、土地売却収入と駐車場移転に伴う補償料を合わせて4千万円以上が入る予定だ。

白井音楽倶楽部新会場決まり

白井音楽倶楽部(松川輝雄会長)がライブを再開する。昨年12月の第6回ライブの後、開催会場が見つからなかったが、「喫茶コスモス」(中179-1/電話497-1745)に決定。7月8日(日)、半年ぶりに開催することになった。

出演は、ジャズがメインの「石井千雅とケインズ」。会費500円(飲食代は自己負担)、午後6時から開演する。

交通機関がない場合、車の無料送迎もある。希望者は当日午後5時半までに西白井駅南口・ロータリー前に集合。

【問い合わせ】松川(090-8460-7301)/幸正(090-1800-7002)

池ノ上に居を構えた15年前から、花ヶ崎純子さんは自宅のピアノを弾きながら、花ヶ崎純子さんは自宅のピアノ教室で多くの生徒を育ててきた。宝塚歌劇団に入りたいたいと頑張る生徒を、声楽指導も加えて合格に導いたこと

花ヶ崎さんは東京オリンピックの2年前、開業医の父と看護婦の母の長女として長野県松本市で生まれた。ときはまさに高度経済成長期の真っ只中。当時「精神科」の看板を掲げる医院は珍しく、ずいぶん遠くからやって来る患者もいた。

「優しい父でした。でも、頼りにされる大事な仕事なんだなりました」

しかし、ピアノを弾きながら、声楽指導も加えて合格に導いたこと

「声楽家の叔母に憧れて」

花ヶ崎さんは、高校時代から本格的な発声の個人レッスンを受けようとして、東京まで通うようになった。子供時代の憧れが、いつしか本気で目指す目標になり、武蔵野音楽大学の声楽科に進学。

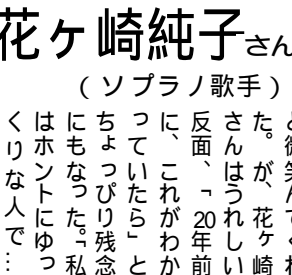
山々に囲まれた静かな環境から、先生が「判ったのね」と微笑んでくれた。が、花ヶ崎さんはうれしくない。『ああ、歌うってこういうことなんだ！』と心から納得できなかった。

長年指導してくれていた先生が「判ったのね」と微笑んでくれた。が、花ヶ崎さんはうれしくない。『ああ、歌うってこういうことなんだ！』と心から納得できなかった。

つと維持できるのも、二入の効用に違いない。基礎からみっちり仕込まれたお陰か、今も難なくプレーを楽しんでいる。基礎と持続が大切なのは、声楽も同じこと。個人レッスンは、2人の娘の出産・育児で数年間中断した以外、今も続けている。40歳を過ぎたある日

「自分の歌声が頬骨の内側で自由自在に反響し、伸びやかに広がっていくのを感じたんです。何時間歌っていても疲れないうことなんだ！」と心から納得できなかった。

長年指導してくれていた先生が「判ったのね」と微笑んでくれた。が、花ヶ崎さんはうれしくない。『ああ、歌うってこういうことなんだ！』と心から納得できなかった。



花ヶ崎純子さん(ソプラノ歌手)

白井で2度目のリサイタル

7月21日(土)開演午後2時(開場1時半)/白井市文化会館大ホール 全席自由(一般1,500円/学生1,000円)

花ヶ崎さんは7月21日(土)、白井に住み始めてから2度目のソプラノ・リサイタルを文化会館大ホールで行う。人生経験を積んで深みが増した歌声は、心の奥底まで響く。今春高校を卒業した長女は、9月から英国に留学する。いい錢はなむけになるだろう。

あ、「子供ながらにも誇らしく思いましたね」。専門は違うが、たった1人の兄も現在、松本市で開業医をしている。

3歳でピアノを習い始めた花ヶ崎さんが、稽古の日に課題を練習する程度。「たいして熱心な生徒ではなかったんです。外で遊び回る方が好きでしたね」

小3のとき、左手を骨折し3カ月もギブス生活をすする羽目。「得意の管の運指から落っことして」と花ヶ崎さんはクスツと笑った。

おっとりした中にキラツとした子顔の面影が覗く。「ギブスをはめていたから外遊びができなくて。お陰で、右手だけのピアノ練習に身が入りました」

しかし、ピアノを弾きながら、声楽指導も加えて合格に導いたこと

転じて、都会の一人暮らしである。『いくら見回しても、全然山がないのが不思議な感じでしたね』

レッスンの明け暮れる毎日だったが、もともと体が動かしやすくて好きなことでテニス部にも入部した。テニス部の交流である医学士と知り合う。それが現在の夫だ。

我孫子市内の病院に勤務する夫とは、今もテニスが共通の趣味である。学生時代の体形をす